



さんぽ木曜だより

2019
夏号
vol.29

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

くちなしの花
 口をつつしめと
 教え諭^{とき}してくゆる
 くちなしの花
 ほのかな香りが
 疲れたゆたしの心を
 ほいしくくゆる
 口ゆえに犯す
 罪のかずかず
 梅雨の晴れ間の
 光に匂う
 白いくちなしの花



館長エッセイ

【第二十九回】

「自分を戒める詩とそれを支える信仰」
について

真民詩とわたし

詩の世界を大切にしたい表装を

あさみ よしみ
浅海 好美 さん

真民詩を読み解く ⑳

自分を奮い立たせ、毅然とした気持ちを持つために
「自らを励ますうた」

記念館からのお知らせ

ボランティアガイドをしませんか
日曜ガイドのご案内

コーヒーブレイク

真民詩を早くから評価

おお やま すみ た
大山澄太さんと真民さん

【第二十九回】「思索ノート」から読み解く

「自分を戒める詩とそれを支える信仰」について

6月22日から始まる企画展「坂村真民と箴言詩」の展示内容を検討するため、真民の「思索ノート」を再度読み返す作業を約3か月かけて行いました。

その中で再認識したのは、宇和島に移つてからの「思索ノート」には、ほぼ毎日「自分への戒めと自己を励ます言葉」が書き残されていることでした。

実際の「思索ノート」の一部を抜き書きしてみます。

【真民ノート50】（昭和33年6月23日）

『今の私はかつてないほどのスランプだ。突破せよこの危機を、坐禅に依つて突き抜けてゆけ。私の詩は私の詩である。他の誰の模倣でもない。真民よ、この道をひたすらに行け。』

【詩記384】（昭和43年10月30日）

『しんみんよ、もつと苦しめ、もつと悩め。お前の詩はこれからだ、六十からだ。六十になるために、あとの二ヶ月を真剣に送るのだ。そしたら輝かしい六十代が到来しよう。』

【詩記606】（昭和58年8月4日）

『しんみんよ、貧乏のどん底にあった頃のこと

を忘れるな。あそこにも帰つてゆくのだ。そうしたらどんな困難にも打ち勝つてゆけるのだ。』

【詩記678】（平成3年5月20日）

『一番恐ろしいのは慢心だ。これにとりつかれると、どんな偉い人でも駄目になる。』

（中略）

つつしめ、つつしめ。足ることを知り、頑固一徹、慢心の誘いに乗るなかれ。』

【詩記739】（平成11年5月10日）

『九十歳以後こそ真の詩が書けるだろう。しっかりと精進してゆこう。フラフラするな。グラグラするな。ウコサベンするな。自分の道をしっかりと歩いてゆこう。詩心一途に生きてゆこう。』

そして、今回私が発見（再認識）したのは、こうした自己への厳しい「戒め箴言」の言葉と同時に、杉村春苔先生への「継る言葉」と「祈りの言葉」「救われた喜びの言葉」が書かれ、それが「厳しい自己への戒め」を支え、実行してゆくうえでの「最後の拠り所」となっていることです。これは、杉村春苔先生こそが坂村真民の宗教と信仰の中心（大詩

母さまであり、大詩霊さま）であったことを物語っています。

実際の「思索ノート」を見てみましょう。

【詩記302】（昭和40年7月20日）

『先生と共に歩むのだ。先生の光を受けて生きるのだ。先生にささげる詩をつくるのだ。せんせいありてわたしが。そのありがたさがわたしの宗教なのだ。』

【詩記491】（昭和48年5月9日）

『先生だけがわたしの唯一の力であり、わたしの光である。わたしのこの世での心であり、神であり、菩薩さまである。大詩母さま。いましてわたしは大詩霊さまの信仰に生きる。』

【詩記708】（平成7年7月28日）

『大詩母さまがおん守り下さる。これがわたしの信仰である。大詩母さまのおかげで生きてきた。わたしの信仰はこれでよい。』

真民は杉村春苔先生がいたからこそ、徹底的に自分を厳しく戒めても、最後は「大詩霊さま」が助けてくださると信じる（真民の信仰の）ことができ、前向きに生きることができたのだと思います。

大詩母さま
おん守り下さる
これわたしの信仰である。
大詩母さまのおかげで
生きてきた
わたしの信仰は
これでよい

先生とせい
のむのた
先生の光をよけて
生きるのだ
先生にささげる
詩をつくるのだ
先生ありて
ゆたしがある
このありがたさが
わたしの信仰なのだ

今のゆえは。かつてないほどの
スランプだ。
突破せよこの危機を
坐禅に依つて、突き抜けてゆけ
私の詩は私の詩である。
他の誰の模倣でもない。
しんみんよ
この道をひたすらに行け

詩の世界を大切にした表装を

浅海好美さん(73歳)



記念館で展示されている真民詩の軸や額。その多くは、真民ファンである浅海好美さんが、ご主人とともに仕立てたものだ。深遠な真民詩の世界に寄り添う奥ゆかしく気品ある表装には、好美さんの思いが込められている。

◆ズシンと心に響く

夫とともに表装店を営んでいた私は、今から30年ほど前に、知人を通して真民先生の詩と出合いました。先生が書かれた原爆の詩が胸にズシンと響いたのです。それは、私が終戦の1ヵ月前に生まれたので、戦争が特別な意味を持つていたからでした。

それから5年ほどのち、詩の表装を依頼されたときに、初めてお会いしました。第一印象は、凛として筋が通っている方だということ。清潔感があって、まるで後光が射しているようでした。

◆表装に込めた思い

先生の詩は4、50点ほど表装させていただきました。いただいたでしょうか。「こうしてほしい」というような注文は一切なしで、すべて



タンポポ堂にて。浅海さんは現在、「まつやま山頭火倶楽部」でも活躍中

任せてくださいました。

詩墨作品を汚さぬよう丁寧に扱うのはもちろんですが、表装が作品より目立って詩の世界を損なわぬよう心がけました。表装に使う裂地きれじがなかなか決まらず、反物を何十本と並べて数時間悩むということもありました。

こうして完成した作品には特別な思いがあります。私たちが手がけた作品が記念館で立派に展示されているのを目にすると、再会の喜びとともに、制作当時のことがあれこれ思い出されます。

◆先生は「心の宝」

先生の詩の中では、ほのぼのとした家族の温かさがにじみ出ている「飯台」の詩が一番好きです。「めぐりあいのふしぎに手を合わせよう」もいいですね。宇和島水産高校のえひめ丸事故の時は、関係者の皆さんの心の慰めになればと、真民詩集を20冊ほどお贈りしました。

先生にお会いすると、光がパーツと射してくるようでした。不思議なこともありました。3歳だった孫が、真民さんのポスターを見て「これ誰？」と何度も聞くんです。「真民さんよ」と教



浅海夫妻による表装。店は数年前に畳んだ

えると、「真民さん、真民さん」と歌いながら、まるで一遍上人の踊り念仏のように両手を上げて嬉しそうに踊ります。子ども心にもなにか感じるころがあったんでしょね。

私は毎月の朴庵例会や重信川源流での「川まつり」などの催事にもほとんど参加しました。砥部の実家で獲れたミカンやツクシ、ピワなどお持ちすると、たいそう喜んでくださったことも懐かしい思い出です。

ご逝去の報が届いたときは、重信橋からご自宅に向かって手を合わせ、ご冥福をお祈りしました。

私にとって先生は「心の宝」。先生にならって、まっすぐに生きないといけない、自戒することもしばしばです。今でも、記念館に行くと、向こうから先生が歩いてこられるような気がします。

自分を奮い立たせ、毅然とした気持ちを持つために

「自らを励ますうた」

この詩は、真民が48歳の時に書いた詩です。吉田高校から宇和島東高校に転勤となつて、宇和島に住むようになって1年目の頃です。

吉田時代は、何と言つても、大乘寺で毎日参禅することが、真民の生活の中心でしたが、宇和島に変わつてきて、参禅が出来なくなり、精神的な支えを失うことになりました。

そして、さらにその大乘寺を中心とした、親しい友人との交流がなかなか出来なくなり、日常の生活の中で、信頼できる友がいけない、淋しい、孤独な想いを持つて生きていました。

そういう真民の気持ちを、自ら励ますために作られたのがこの詩なのです。

この時期の真民は、人情味あふれる吉田の人たちと別れて、まだまだ宇和島の人たちとの交流もなく、精神的にも落ち着かない状況の中で生活

していました。

本当に、詩も書けなくなるほどスランプに陥り、何とかしてそこから脱却しないといけないと、毎日真剣に考えている中で、自分を奮い立たせ、毅然とした気持ちを持つことが出来るようにと必死で思っている真民の姿が、浮かんでくるような詩です

真民はこの詩を書く3年前に、宇和島の映画館で「エヴェレスト征服」という、イギリス登山隊のエヴェレスト登頂に成功する記録映画を観ています。また日本ヒマラヤ登山隊のマナスル登頂の記録映画「白き神々の座」を2年前に家族全員で観て、感動したことを「思索ノート」に書いています。

どちらの映画も、過酷な状況の中で山頂に向けて孤独な歩みを続ける登山家とそれをサポートする現地人シエルパの姿に、今の自分の立場と気

自らを励ますうた

真民よ

人間を少しでも引き上げるような詩人になれ

世界を少しでも善くするような詩人になれ

人間を絶望させ

人間を墮落させ

人間を不定するような詩をつくるな

エヴェレストの頂のように

マナスルの山のように

毅然と立て

深海の魚のように

自ら燈をつけて遊泳せよ

どん底から真理を発見して

前進せよ

持ちを重ねて、この詩を書いたのだと思います。

そして、「深海の魚のように、自ら燈をつけて、どん底から真理を発見して、前進」することを、自らに訴え、自らを励ましている詩なのです。

坂村真民記念館では、6月22日か

ら新しい企画展「坂村真民と箴言詩」～自分を厳しく戒め、明日へ向かつて生きるための詩～を開催する予定です。この詩も展示することになっていますので、是非ご来館のうえ、真民直筆の詩を見てください。



自分の成長と社会奉仕に関心のある方へ

ボランティアガイドをしませんか

令和元年度坂村真民記念館
ボランティアガイド養成講座・募集要項

受講無料

受講期間 令和元年
9月6日(金)～12月6日(金)

場所 坂村真民記念館
会議室

定員 25名程度(先着順)
受講決定者には、記念館よりお知らせします。

募集期間 令和元年
7月10日(水)～8月31日(土)

募集受付 希望者は、電話かメールで申し込みください。メールの方は、氏名、住所、年齢、性別、電話番号を記載してお送りください。

〈電話〉089-969-3643
〈メール〉info@shinmin-museum.jp
問い合わせ先 TEL089-969-3643(坂村真民記念館)

現在35名の方が活動されています。
(30代から80代まで幅広い方々がいらっしゃいます。)

講座を修了し、
現在ボランティアガイドとして
活躍されている方々の声

- 来館者の方から質問を受け、館長に聞いたり、自分で調べていく中で、自分が知らなかった真民さんのことが良く分るようになった。
- 来館者の方が熱心なファンで、色々と教えてもらうことが何度もある。
- 来館者の方と話をすることにより、自分自身が成長することに気付いた。

修了者には修了証書を授与し、令和2年1月から1日4時間を月に2～3回程度ガイドしていただきます。最初はベテランのガイドさんと一緒にいき、慣れてから1～2人でガイドします。

講座概要・日程表

回数	日時	講座内容	講師
1	9月6日(金) 10:00～12:00	開講式・坂村真民の生涯(1)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
2	9月13日(金) 10:00～12:00	坂村真民の生涯(2)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
3	9月27日(金) 10:00～12:00	坂村真民の人生と詩について(ビデオ鑑賞)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
4	10月4日(金) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(1) 三瓶・吉田時代	坂村真民記念館館長 西澤孝一
5	10月18日(金) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(2) 宇和島時代	坂村真民記念館館長 西澤孝一
6	11月1日(金) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(3) 砥部時代	坂村真民記念館館長 西澤孝一
7	11月8日(金) 10:00～12:00	家族にとつての坂村真民	長女 田中 梨恵子 三女 西澤 眞美子
8	11月22日(金) 10:00～12:00	記念館の特色と展示作品の解説(講義)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
9	12月6日(金) 10:00～12:00	記念館の特色と展示作品の解説(実習) 修了式	坂村真民記念館館長 西澤孝一

真民さんの詩や随筆を一緒に読みませんか！

日曜講座のご案内



隔月第3日曜日(原則)に一般の方を対象とした日曜講座(一般)を開講しています。本講座は各1回で完結する講座です。坂村真民について興味をお持ちの方ならどなたでもお気軽にご参加いただけます。

真民詩集または真民の随筆集を順番に採りあげ、その中から5～6篇の詩または3～4小節を選び、その意味と背景について館長が分かりやすく解説します。その後参加者の皆様と意見や感想を交換しながら、真民について理解を深めていただくための講座です。

現在は、随筆集「めぐりあいのふしぎ」を採りあげ、毎回15～20ページずつ読んでいます。どうぞ、お気軽に参加して、真民の生きてきた足跡を一緒に辿ってみませんか。

開催日程 〈令和元年〉
7月21日、8月は休み、9月15日、
10月20日、11月は休み、
12月15日

時間 10時30分～12時 **募集人数** 20名

お申し込み方法

日曜講座の受講を希望される方は、お電話またはFAXで以下の項目を、受講日の1週間前までにご連絡して下さい。

〈必要事項〉

- ①氏名 ②住所 ③電話番号 ④受講を希望する講座名
⑤受講を希望する日 ⑥年齢 ⑦性別

〈電話〉089-969-3643

〈FAX〉089-969-3644



真民詩を早くから評価

大山澄太さんと真民さん

「坂村真民さんは、詩を作るために、この世に生れてき、そして詩を作ることによって、生きてゐるやうな人である」

昭和26年、大山澄太さん主宰の大耕舎から出版された

真民さんの第二詩集『三昧』で、同氏は跋文にこう記しました。

種田山頭火を世に出した大山さんは、詩人としての真民さんを早くから評価していたのです。



大山澄太さん



『三昧』表紙は日本画の大家・川合玉堂、裏表紙は真民さんが描いた

岡山出身で戦後松山に暮らした大山澄太さんは、通信省の機関紙の編集長などを務める一方、早くから禅の修行にも励みました。また、俳句を通じて知り合った種田山頭火と意気投合し、彼を支援、山頭火の死後は、その顕彰に尽力した人物として知られています。

戦後、「大耕舎」と称した松山市の自宅で、月刊の個人誌『大耕』を発行。講演も数多く、社会教育家として足跡を残しました。

真民さんと、10歳年長の大山さんの縁はどのように結ばれたのでしょうか。

『三昧』によれば、初対面は三瓶時代。真民さんは昭和21年に短歌結社「蒼穹」の同人だった佐伯秀雄さんに招かれ、熊本から愛媛県三瓶町へ移りました。

ある時、佐伯さんを訪ねてきた大山さんに紹介されます。初対面ではあつたのですが、真民さんはすでに大山さんの著作を読んでおり、しかも、二人は

国文学雑誌『文藝文化』にしばしば寄稿していたようで、「誌上では旧知の間柄」(大山)だったことが判明します。二人は「どんどん仲よくなつて」(大山)、大洲・如法寺や吉田の大乗寺などで大山さんが主宰する禅の修養会に

真民さんも加わり、互いの家を訪ねるなど交遊を深めていきました。短歌から詩に転じた真民さんは、昭和26年春に第一詩集『六魚庵天国』

を刊行。そのわずか半年後に第二詩集『三昧』を大耕舎から出版し、大山さんは跋文で、冒頭の言葉を次のように続けています。

「真民さんの詩は、よく解る、平淡

でありながら、非常に深いものの影を映じてゐる。そして、何とも云へぬ寂寞なリズムを抱いてゐる。それは真民さんが、魂の世界を、ぐん／＼掘下げて、果もなく旅をつづけておられるからである」

真民さんも同詩集の「あとがき」で、大山さんとの邂逅を「全く前世からの深いえにしという外ない」「仏縁の二字で表す外ない由縁の糸の不可思議さを沁々(しみじみ)と感ずる」「孤独な流転の私をどんなに力づけ勇気づけ鞭うち励まして下さる」と、尊崇の気持ちを表します。

砥部に移った真民さんは、大山さんの月例会「涼風会」に頻繁に参加し、自作の詩を朗誦することもありました。

「タンポポだより」前号で紹介した陶芸家・山本教行さんも、20歳の頃に

真民さんの案内で大耕舎を訪ね、以後、『大耕』の詩友となるなど、大山さんとの交流が続いたそうです。

大山さんの労作『定本山頭火全集』(全7巻・昭和45年刊)の推薦者11人には、土岐善磨、金子兜太、山本健吉、永六輔らとともに、真民さんも名を連ねています。

厳しい求道の精神から生まれる真民詩の真髓を見事につかみとった大山さんと、禅の思想を体現した大山さんに私淑した真民さんですが、二人の交わりは大山さんの晩年には希薄になつたようです。しかしながら真民さんは、平成6年に大山さんが95歳で亡くなった時、「大山先生がいなければ山頭火が世に出ることはなかっただろう」という追悼の言葉を日記に残しています。

(タンポポだより編集部…太田由美子)

坂村真民記念館を応援しています



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



【関連グループ会社】
株式会社 クリオ ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

株式会社 宣翔物産
〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り
千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社
〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院





To-be
supported by tobe hospital

介護付有料老人ホーム To-be
78居室/20㎡～24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部
18居室/2LDK 40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

詩墨集
筆の詩墨の花
●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!



随筆集
念ずれば花ひらく
●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!

いま届けたい、生き方の道しるべ

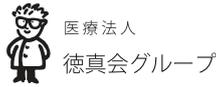
詩集
念ずれば花ひらく
●定価=本体各1000円+税

詩集 二度とない人生だから

詩集 宇宙のまなざし

サンマーク出版
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

10万部突破の
超ロングセラー!



医療は 人なり

徳真会グループの想い

徳真会グループは、1981年新潟県の旧新潟市という地方の小さな町より始まりました。ユニット3台、スタッフ6名といったどこにもある様な歯科医院からスタートし、以来38年間、常に患者さま本意の歯科医療のあり方を追求し続けています。また、国会依存度の低い自立した組織運営を模索し、「世界が舞台」という意識で組織創りを行ってきました。

現在、年間90万人の患者さまにご来院頂く、世界最大級の歯科医療グループとなっておりますが、時代先駆の組織創りへの挑戦はまだまだ続きます。



新潟、宮城、東京、大阪、福岡に32医院。
詳しくはホームページをご覧ください。

徳真会グループ 検索

www.tokushinkai.or.jp



坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

〔編集後記〕 現在開催している開館7周年記念特別展「真民詩とともに生きてゆく」の中で、これまで7年間の来館者から頂いた「記念館と真民へのメッセージ」を展示していますが、ここに今後の記念館の方向性が示されているように思われます。詳細は次号のタンポポダよりで読み解いてみたいと思っています。まだご覧になっていない方は、是非記念館で実物を見てください。皆様のご来館を心からお待ちしております。(西)

タンポポダより vol.29 夏号

令和元年6月1日発行 表紙写真：西澤孝一
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり